

2021.10.27

Dance Base Yokohama



## Dance Base Yokohama、12月10日(金)～12日(日)にKAAT 神奈川芸術劇場で YPAM Joint Program 「DaBYパフォーミングアーツ・セレクション」を開催

本公演は、昨年6月にコロナ禍でオープンした日本では珍しいダンスハウスのDance Base Yokohama(DaBY)にて創作を行ってきた日本のダンスアーティストによる選りすぐりのパフォーミングアーツ作品を上演するショーケースです。DaBYではクリエイションに集中できる環境を提供することに取り組むと共に、創作した作品をさらに国内外の様々な劇場で再演することを目指しています。

世界でも有数の舞台芸術プラットフォーム「YPAM – 横浜国際舞台芸術ミーティング 2021」では、海外で活躍してきたベテランから新進気鋭のアーティストまで、DaBYでレジデンスを行なっているアーティストたちが、コロナ禍で工夫を重ねながらも粘り強く創作をしてきた全7作品をトリプルビル形式でご覧いただきます。個性的な日本のダンスアーティストたちが、コロナ禍で取り組んだ「身体による社会への応答」、その表出にご注目ください。

尚、横浜馬車道にあるDaBYでは、YPAM開催期間中に、DaBYとゆかりのあるダンスアーティストによるパフォーマンス、ワークインプログレスを開催します。

日 程	12/10(金) 15:00/19:00、12/11(土)18:00、12/12(日)12:30/17:30 計5公演
会 場	KAAT神奈川芸術劇場〈大スタジオ〉(〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町281)
料 金	一般(オーディエンス) 4500円 / U25(オーディエンス) 2500円 / YPAM登録者(プロフェッショナル) 4,000円
チケット	11月1日(月) 15:00～ チケットかながわにて発売 <a href="https://www.kaat.jp/">https://www.kaat.jp/</a> / 0570-015-415 (10:00～18:00) 窓口: KAAT神奈川芸術劇場2階 (10:00～18:00)
詳 細	<a href="https://dancebase.yokohama/info/5012">https://dancebase.yokohama/info/5012</a>
主 催	Dance Base Yokohama
共 催	YPAM2021 実行委員会、愛知県芸術劇場

## TIME TABLE

	「ダンスの系譜学」より			鈴木竜			橋本ロマンス×やまみちやえ
	安藤洋子 『MOVING SHADOW』 『失われた 委曲』	酒井はな 『瀕死の白鳥』 『瀕死の白鳥 その死の真相』	中村恩恵 『BLACK ROOM』 『BLACKBIRD』	『never thought it would』	『When will we ever learn?』	『Proxy』	『江丹愚馬』(ENIGMA)
12/10(金) 15:00～		●	●		●		
12/10(金) 19:00～	●			●	●		
12/11(土) 18:00～	●	●	●				
12/12(日) 12:30～		●				●	●
12/12(日) 17:30～				●		●	●

\* 「ダンスの系譜学」は、バレエの歴史を刷新してきた巨匠振付家のフォーキン、キリアン、フォーサイスの理念を継承するとともに、時には彼らを触発してきた安藤洋子、酒井はな、中村恩恵の3名のダンスアーティストが、その原点となるオリジナル作品の上演と今日的な継承/再構築に取り組むプロジェクト。10月1日に愛知県芸術劇場にて初演を迎えた。

\* 「鈴木竜トリプルビル」では、DaBYアソシエイトコレオグラファーの鈴木竜がコロナ禍で取り組んできた3つの新作を発表。「わたしのからだはわたしのものか」を通底するテーマとして、愛知県芸術劇場にて12月3日に初演を迎える。

## PROGRAM

公演写真: 羽鳥直志

## 『MOVING SHADOW』

振付・出演 安藤洋子

出演：木ノ内乃々 山口泰侑 / 音楽：岡直人

## 『失われた委曲』よりソロ

振付：ウィリアム・フォーサイス

出演：安藤洋子



宮沢賢治の「春と修羅」をモチーフに創作した安藤洋子の『MOVING SHADOW』は、オーディションで見出された2名の若手ダンサーと約2年のクリエイションを経て誕生した新作。本作品とともに、フォーサイスの代表作『失われた委曲』の一部を再構築した安藤のソロを連続上演する。

『瀕死の白鳥』

ミハイル・フォーキン原型 酒井はな改訂  
チェロ：四家卯大



『瀕死の白鳥 その死の真相』

演出・振付：岡田利規  
編曲・チェロ：四家卯大

世界中のバレエダンサーが踊り続けてきたフォーキン原作による『瀕死の白鳥』。本公演では日本を代表するダンサーの酒井はなが、演劇作家の岡田利規と取り組んだ新解釈バージョンを上演。白鳥の死因に迫ることとバレエの様式を解体し、現代のパフォーミングアーツの新たな局面を切り開く。

『BLACK BIRD』よりソロ

振付：イリ・キリアン

『BLACK ROOM』

振付・出演：中村恩恵  
衣裳：串野真也



言葉にならなかった声に耳を澄ませた中村の新作『BLACK ROOM』と、キリアンが中村のために振り付けた『BLACK BIRD』よりソロの場면을上演。闇の中から生まれ落ちた新たな生命を想起するような連作、2作品を併せてご覧下さい。

『never thought it would』

振付・出演：鈴木竜

ドラマトウルク：丹羽青人 / 美術：宮野健士郎 / 照明：武部瑠人 / 衣裳：渡辺慎也

ピナ・バウシュは次のように語っています。「Dance, dance, otherwise we are lost. (踊り続けなさい。自分を見失わないように)」と。しかし私はとっくの昔に自分を見失って、もう必死に踊り続けることしか残されていないのです。

『When will we ever learn?』

振付・出演：鈴木竜

出演：飯田利奈子、柿崎麻莉子、中川賢



彼らとわたし。その非対称的な関係において、糾弾の叫びとしてダンスはいかに姿を現すのか。

理性が求める対話的表現を前提としない表現を探りながら創作に挑みます。

## 『Proxy』

振付：鈴木竜

出演：伊藤琴葉、杉浦ゆら、鈴木大翔、副島日穂、松山源樹、山田怜央  
人形デザイン・製作：オデット・ピコ (Odette Picaud)

身体を失ってからやっと言いたいことが言えるわたしたち。

もしかして、幽霊という存在は、現代のSNSの無責任なアバターたちのような、  
自分の存在をその後ろに隠してうらみを発散するための存在だったのではないのでしょうか？

## 橋本ロマンス×やまみちやえ『江丹愚馬』(ENIGMA)

演出・振付：橋本ロマンス

詞章・作曲：やまみちやえ

出演：安部 萌、村井玲美 (OrganWorks)、山田茉莉



ポップカルチャーと現代美術的な手法を融合した同時代性の高い作品で注目を集める橋本ロマンスと、和歌や能、浄瑠璃などの日本の古典のテキストを独自の手法でコラージュし、義太夫節と邦楽囃子の新曲として現代に蘇らせる作曲家・太棹三味線演奏家のやまみちやえによる初のコラボレーションプロジェクトによる新作を上演。

## STAFF

プロデューサー：唐津絵理（愛知県芸術劇場/Dance Base Yokohama）

プロダクションマネージャー：世古口善徳（愛知県芸術劇場）

舞台監督：小黒亜衣子

照明：伊藤雅一 (RYU)

音響：牛川紀政

マネージングディレクター：勝見博光(Dance Base Yokohama)

制作：田中希(Dance Base Yokohama)



愛知県芸術劇場

## DaBYでの関連プログラム \*詳細は後日発表いたします

---

### 音で観るダンス 新作ワークインプログレス（企画：田中みゆき/出演：康本雅子ほか）

日程：12月13日(月)

会場：Dance Base Yokohama

見える/見えないの境界を融解させ、他者と共にダンスを 観ることの意味を問うことを目的とした、キュレーターの田中みゆきによる企画「音で観るダンスのワークインプログレス」の発展版として、ダンサーの康本雅子と共にクリエイションを行っているプロジェクトのワークインプログレスを発表する。

「音で観るダンスのワークインプログレス」とは、2017年から2019年まで3年にわたってKAAT神奈川芸術劇場と共に展開した企画で、視覚に障害のある人たちに音で視覚情報を補助する「音声ガイド」から着想したテキストを用いて、視覚障害者と晴眼者が共にダンスを鑑賞するプロジェクトである。

### DaBYレジデンスコレオグラファー ハラサオリ新作『P wave』

日程：12月19日(日) 15:00

会場：Dance Base Yokohama

ヒトが環境やオブジェクトからどのような情報を読み取り自らの行動を決めているかという、認知心理学的な視点から作品を創作してきたハラサオリ。知覚と認知をテーマとした本作では、非常事態下におけるヒトの社会行動に焦点を当てる。大都市でありながら常に災害のリスクと隣り合わせにある東京という街で生まれ育ったハラが、避難訓練や集団下校といった日本特有の身体教育の経験や記憶を振付家として再考察する。2020年11月に同会場にて上演されたワークインプログレス公演『絶景』をさらに発展させた新作として上演。



ワークインプログレス『絶景』／2020年 Dance Base Yokohama  
©Yulia Skogoreva



## PROFILE

---

安藤洋子『MOVING SHADOW』

振付・出演 安藤洋子

共演：木ノ内乃々 山口泰侑



©Dominik Mentzos

### 安藤洋子 Yoko Ando

横浜生まれ。木佐貫邦子に師事。2001年よりフランクフルトバレエ団 (Ballett Frankfurt) にアジア人として初めての入団を果たす。04年 フランクフルトバレエ団解散後も引き続きザ・フォーサイス・カンパニー(The Forsythe Company) に在籍し、15年のカンパニー解散までの15年間、中心ダンサーとして、世界各国の舞台上で踊り、フォーサイスの40作品に出演。01年以降、カンパニーの活動以外では、自身が作/演出/出演するダンス作品発表のほか、国内外の音楽家や現代美術家等とのコラボレーション、メディアテクノロジーを使ったダンスの創作と教育などにも積極的に取り組んでいる。現在、象の鼻バレエプロジェクト、神奈川県共生共創事業などのプロジェクトリーダーを務めている。



©Naoshi HATORI

### 木ノ内乃々 Nono Kinouchi

3歳よりマユミキノウチバレエスタジオでクラシックバレエを始める2015年よりワシントンバレエスクール、ベルリン国立バレエスクールに留学  
2019年 舞台『Memory of Zero』、POLA APEXブランドムービー、『眠り姫』出演

第19回 オールジャパンバレエユニオンコンクール コンテンポラリーソロ 1位

中野国際ダンスコンペティション1位 他



©Naoshi HATORI

### 山口泰侑 Taisuke Yamaguchi

5歳でダンスを始め、スタジオSRN GOLDRUSHでHIPHOP、ブレイキングを学ぶ。

その後、二松學舎大学附属高等学校ダンス部に入部しPOPを学び、現在、洗足学園音楽大学ダンスコースに在学中。二松學舎大学附属高等学校ダンス部でコーチとして後輩の育成を行っている。

酒井はな『瀕死の白鳥 その死の真相』

演出・振付 岡田利規

チェロ：四家卯大



©Tomohide Ikeya

### 酒井はな Hana Sakai

アメリカのシアトルに生まれ、神奈川県鎌倉市で育つ。1979年からバレエを始め、畑佐俊明に師事。橘バレエ学校、牧阿佐美バレエ団に入団し、14歳でキューピット役に抜擢、18歳で主役デビュー。1997年新国立劇場バレエ団設立と同時に移籍、主役を務める。2007年劇団四季の『コンタクト』と09年『アンデルセン』にゲスト出演。2013年ユニットAltneu〈アルトノイ〉として、島地保武との共同創作を本格的に開始する。

1996年村松賞新人賞、舞踊評論家協会新人賞、1997年中川鋭之助賞、1998年芸術選奨文部大臣新人賞、2000年服部智恵子賞、2008年舞踊批評家協会賞、2009年芸術選奨文部科学大臣賞、2015年ニムラ舞踊賞、2017年紫綬褒章、2021年第69回舞踊芸術賞など。



©Kikuko Usuyama

### 岡田利規 Toshiki Okada

演劇作家／小説家／チェルフィッチュ主宰

1973年横浜生まれ、熊本在住。活動は従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。『三月の5日間』で第49回岸田國土戯曲賞を受賞。小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』で第2回大江健三郎賞を受賞。2016年よりドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピレのレパートリー作品演出を4シーズンにわたって務め、2020年『The Vacuum Cleaner』が、ドイツの演劇祭Theatertreffenの“注目すべき10作品”に選出。2021年戯曲集『未練の幽霊と怪物 挫波／敦賀』で第72回読売文学賞 戯曲・シナリオ賞を受賞。



### 四家卯大 Udai Shika

ロック、ポップス、ジャズ、クラシック、即興音楽と多彩なジャンルで活躍する土俗的チェリスト。

日本の商業音楽界を支えるトップ・ストリングスアレンジャーのひとり。近年では Bank Band、Mr.Children、ONE OK ROCKをはじめ、多数のロックバンドにストリングス担当として演奏&アレンジで参加。

2019年10月にはバッハの無伴奏チェロ組曲に挑戦した「たいようの谷」をリリース。オリジナル曲やクラシックに即興を取り入れた演奏スタイルも得意とする。<http://udai66.com/>

中村恩恵 『BLACKBIRD』 『BLACK ROOM』

振付・出演 中村恩恵

衣裳：串野真也



©Tadashi Okochi

### 中村恩恵 Megumi Nakamura

横浜市出身。1988年ローザンヌ国際バレエコンクールにてプロフェッショナル賞を受賞後、モンテカルロバレエ団を経て、イリ・キリアン率いるネザールランド・ダンス・シアターに所属し活躍。2007年に日本へ活動の拠点を移した後も、ダンサー・振付家として、新国立劇場バレエ団、Kバレエカンパニー、パリ・オペラ座のエトワールなどに作品を提供。首藤康之との創作活動も積極的に行っており、「Shakespeare THE SONNETS」（新国立劇場）など多くの作品を上演。また、キリアン作品のコーチも務め、パリ・オペラ座をはじめ世界各地のバレエ団や学校の指導にあたる。第61回芸術選奨文部科学大臣賞、第67回神奈川文化賞、2018年紫綬褒章など受賞多数。



### 串野真也 Masaya Kushino

広島県尾道市因島出身。京都芸術デザイン専門学校を卒業後、イタリアに留学。"Istituto MARANGONI"ミラノ校、ファッションデザインマスターコースにてディプロマを取得。帰国後、自然からインスピレーションを受け、ファイナルデザインをテーマにした靴の作品を最先端技術や伝統技術などを駆使して製作し、世界に向けて発表している。現在は、バイオテクノロジーなど科学技術を取り入れたアート作品なども積極的に取り組んでいる。2016年、京都府文化賞奨励賞受賞。作品は、イギリスの国立博物館、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、NYのFashion Institute of Technology 美術館に永久保存されている。

DaBYアソシエイトコレオグラファー 鈴木竜

『never thought it would』

振付・出演 鈴木竜



©Takayuki Abe

### 鈴木竜 Ryu Suzuki

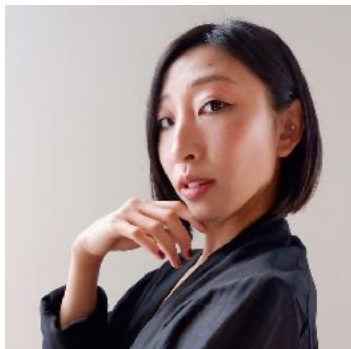
Dance Base Yokohama アソシエイトコレオグラファー。横浜に生まれ、山梨・和歌山・東京で育ち、英国ランベール・スクールで学ぶ。これまでにアクラム・カーン、シディ・ラルビ・シェルカウイ、フィリップ・デュクフレ、インバル・ピント/アブシャロム・ポラック、エラ・ホチルド、平山素子、近藤良平、小尻健太、夏木マリなど国内外の作家による作品に多数出演。振付家としても横浜ダンスコレクション2017コンペティションIで「若手振付家のためのフランス大使館賞」などを史上初のトリプル受賞するなど大きな注目を集めており、作品は国内外で多数上演されている。



『DIRTY DEEDS DONE DIRT CHEAP』

振付・出演 鈴木竜

出演：飯田利奈子、柿崎麻莉子、中川賢



**飯田利奈子 Rinako Iida**

6歳から岡本博雄バレエスクールでバレエを始める。

2010年より神戸女学院音楽学部 舞踊専攻にて島崎徹、Jan Nuyts、Graham Mckelvieに師事。

在学中に、コンテンポラリーダンス、モダンダンスを学ぶ。

2014年より新潟レジデンシャルダンスカンパニー Noism2に所属。

2018年より、オランダのNetherlands Dance Theater1に所属。

2021年に退団。



©Naoshi HATORI

**柿崎麻莉子 Mariko Kakizaki**

L-E-V Sharon Eyal|Gai Behar に所属し、世界ツアー中。公演活動と並行して、世界各地でワークショップ指導をおこなう。

元新体操選手。元Batsheva ensemble Dance Companyダンサー（2012-2014）。2011年韓国国際ダンスコンペティション（KIMDC）ダンサー金賞受賞。2013年度香川県文化芸術新人賞受賞。2014年Israel Jerusalem Dance Week Competition受賞。ダンサーとしてパリコレに出演（Dior 2019ss）する他、写真・映像モデル、執筆活動など、さまざまな媒体で表現活動を行う。Japan Dance Forum賞（2020）受賞。



©Naoshi HATORI

**中川賢 Satoshi Nakagawa**

6歳から現代舞踊を和田朝子に師事。

関東国際高校演劇科卒業。日本大学芸術学部演劇学科洋舞コース卒業。

2003年～2009年まで、現代舞踊公演『火の鳥』主演のほか『回転木馬』カーニバルボーイ役や『イーストウィックの魔女たち』マイケル役などミュージカルにも出演。2009年から日本初の公立劇場専属舞踊団新潟市りゅーとぴあ「Noism1」にて活動。2018年『ROMEO & JULIETS』ティボルト役で退団した。その後東京に戻り、平山素子、中村しんじ、川野眞子など作品に出演。ダンスのみならず様々なジャンルに挑戦していく。



### 橋本ロマンス Roma Hashimoto

DaBYレジデンスアーティスト。

1995年生まれ。東京都出身。

コンセプチュアルな手法を用いながらもポップ/ストリートカルチャーの要素を取り込むことでアートファン以外にも訴える魅力を持つ同時代性の高いパフォーマンスを制作する。

作品全体を貫く美意識と、様々な文脈を分解しコラージュの如く再構築することでテーマを多面的に分析し仮定を提示するスタイルが特徴。

SICF20 PLAY部門グランプリ。横浜ダンスコレクション2020最優秀新人賞。



### やまみちやえ Yae Yamamichi

1995年生まれ。高知県出身。

6歳より義太夫三味線を竹本弥乃太夫師に、10歳より邦楽囃子を田中佐幸、望月庸子両師に師事。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学同学部音楽環境創造科卒業。クマ財団クリエイター奨学生。

日本の古典作品を主題とした、義太夫節と邦楽囃子、コンテンポラリーダンスによる作品上演を通して、古典が内包している同時代性を蘇らせ、身近な物語として再発見する機会を提供している。

## 取材のご案内

---

Dance Base Yokohamaアーティストックディレクター及び愛知県芸術劇場エグゼクティブ・プロデューサーの唐津絵理が、「DaBYパフォーミングアーツ・セレクション」のコンセプト及び発表作品の創作過程について、愛知県芸術劇場とDaBYの連携の試みを交えてお話しします。



©Takayuki Abe

### 唐津 絵理 (愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー / DaBY アーティストックディレクター)

お茶の水女子大学文教育学部舞踊教育学科卒業、同大学院人文科学研究科修了。舞台活動を経て、1993年より日本初の舞踊学芸員として愛知芸術文化センターに勤務。2000年に所属の愛知県文化情報センターで第1回アサヒ芸術賞受賞。14年より現職。10年～16年あいちトリエンナーレのキュレーター (パフォーミング・アーツ)。大規模な国際共同製作から実験的パフォーマンスまでプロデュース、招聘した作品やプロジェクトは200を超える。文化庁文化審議会文化政策部会委員、全国公立文化施設協会コーディネーター、企業の芸術文化財団審査委員、理事等の各種委員、ダンスコンクールの審査員、第65回舞踊学会大会実行委員長、大学非常勤講師等を歴任。講演会、執筆、アドバイザー等、日本の舞台芸術や劇場の環境整備のための様々な活動を行っている。著書に『身体の知性』等。

## Dance Base Yokohama

---

プロフェッショナルなダンス環境の整備およびダンスに関連するあらゆるクリエイター育成に特化した事業を企画・運営するダンスハウス。アーティストックディレクターを唐津絵理 (愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー) が務め、複合芸術であるダンスの発展のため、振付家やダンサーといったアーティストのみならず、音楽家、美術作家、映像作家、照明デザイナー、音響デザイナー、またプロデューサーやプロダクションスタッフ、批評家、研究者、そして観客の皆様の交流拠点になることをめざしています。Dance Base Yokohamaが、ダンスを巡る多くの人々が垣根なく集える磁場=プラットフォームとなるよう、DaBY (デイビー) の愛称をつけました。クリエイションを行うレジデンススペースでありながら、地域のアーティストや市民との交流も行い、ワークショップや実験的なトライアウト公演の実施や、ダンスアーカイブ事業など、さらなる多様な試みを展開予定です。2020年グッドデザイン賞受賞。2021年、ロゴマークが東京TDC賞2021に入選。